

平成 27 年度 東京都内湾水生生物調査 5 月成魚調査 速報

●実施状況

5 月 15 日の成魚調査時の各地点の概況を下表に示す。調査当日は中潮で満潮 15 時 13 分、干潮 8 時 52 分（東京都港湾局のデータ）であった。当日の調査時間帯の波高は当初 0.1m 未満で静穏でしたが午後になって、急に南風が強まり 0.3m になった。

また、3 日前に 58.5mm の大雨があった。

調査地点	St. 10		St. 22		St. 25		St. 35	
調査時間帯	13:22~13:34		12:49~12:59		11:58~12:08		10:53~11:30	
水深(m)	7.3		13.8		16.6		25.5	
天候	晴れ		晴れ		晴れ		晴れ	
気温	25.2		24.8		24.0		23.0	
風向/風速(m/s)	S/5.5		SSW/5.3		無風		無風	
波浪(m)	0.3		<0.1		<0.1		<0.1	
水色	緑褐色		緑褐色		灰黄緑色		濃(暗)・灰黄緑色	
透明度(m)	1.2		1.5		1.3		1.8	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(°C)	21.2	18.9	22.0	18.4	20.7	16.0	20.4	15.1
塩分	26.0	27.8	28.6	30.1	15.4	31.0	29.9	33.2
pH	8.5	8.0	8.5	8.0	7.8	7.6	8.6	7.9
DO(mg/L)	13.8	9.5	15.3	8.2	8.2	4.8	12.3	3.5
臭気	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し	無し
備考	赤潮気味		赤潮気味				曳網 3 回するも、クラゲ類のみ	

観測層：上層(0m)・下層(海底面-1m)

●主な出現種等(速報なので、種名等は未確定)

主な出現種等	St. 10	St. 22	St. 25	St. 35
魚種 (多い順 ^注)	ハタタテヌメリ (2)	ハタタテヌメリ (+)	マゴチ (1)	採取魚なし
		マコガレイ (4)	ハタタテヌメリ (1)	
		シログチ (1)		
魚類以外	クシノハクモヒトデ(+)	トリガイ (c)	キセワタガイ (25)	アカクラゲ (m)
	キセワタガイ (4)	クシノハクモヒトデ (+)	クシノハクモヒトデ (19)	ミズクラゲ (m)
	イッカククモガニ (2)	イッカククモガニ (r)	チヨノハナガイ (6)	
備考				3 回の曳網結果

注) 表中の () 内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

St. 10

調査地点位置

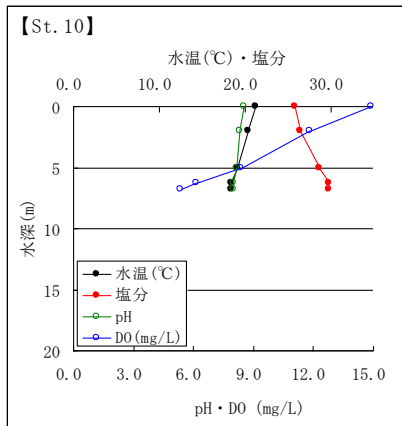


ディズニーランドの岸寄りに位置する。付近は海草のアマモが浮遊しているのが目立った。ハタタテヌメリのほか、トリガイ、イッカククモガニ、クシノハクモヒトデ、キセワタガイ等が確認された。付近は表層の溶存酸素量が高く、赤潮気味であった。

採取試料

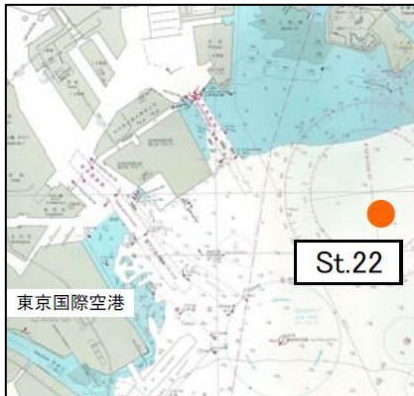


水質の状況



St.22

調査地点位置

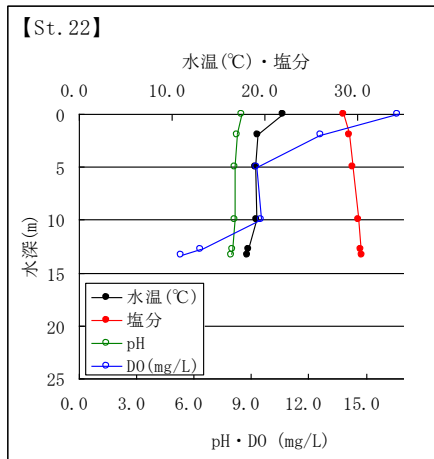


ディズニーランドの約3km沖合に位置する。シログチ、マコガレイの稚魚、ハタタテヌメリのほか、トリガイ、クシノハクモヒトデ等が確認され、生物は4地点で最も多く採捕された。付近は表層の溶存酸素量が高く、赤潮気味であった。

採取試料



水質の状況



東京湾の砂泥底に多く生息する、底生性の魚類で、浮き袋で音を出すことが知られている。有用種でカマボコ等の練り製品の材料になる。



東京湾に生息するカレイの代表種。干潟の砂地で生育するイシガレイと違い、やや深い砂泥底で稚魚期を過ごす。成魚は45cm程度まで成長する。



今回St.22では57個体約2.3kgの量のトリガイが採集された。付近の海域では、かなりの密度で生息していると考えられる。



今回St.22では10数個体のハタタテヌメリが確認された。いずれも小型個体なので、付近の海域が生育の場となっていると考えられる。



東京湾奥部の砂泥底に多く生息するクモヒトデの仲間。貧酸素にも強く、夏季には本種しか採捕されないということがしばしばある。



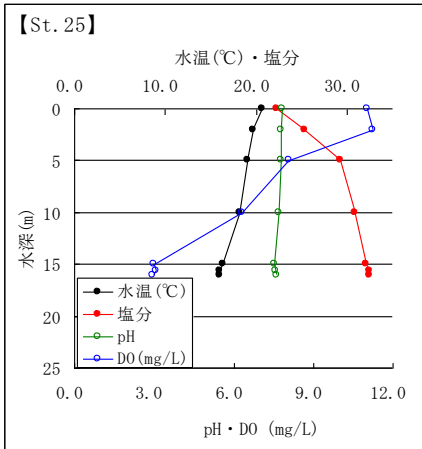
今では東京湾にすっかり定着して、店頭で販売されているが、もともと北米原産の外来種の二枚貝。貧酸素にも比較的強い種類。

St. 25

調査地点位置



水質の状況



羽田空港の北東に位置する。ミズクラゲを主体とする多量のクラゲ類に混じって、マゴチ、ハタタテヌメリのほか、トリガイ、チヨノハナガイ、クシノハクモヒトデ、キセワタガイ等が確認された。付近の透明度は1.3mしかなかったが、赤潮と水色は異なり、河川からの濁りによるものと推定された。

採取試料



稚魚調査でも確認されている底生性の有用魚類。大きさから2~3歳くらいだろうか。干潟で稚魚期を過ごし、成長とともに沖合に移動して行くと思われる。



ハタタテヌメリは小型種のため、食用としてはあまり利用されないが、天ぷらにするとおいしいようだ。



今回 St. 25 では25個体のキセワタガイが確認された。この貝が多量に採捕されることは珍しい。



クシノハクモヒトデは足がもろく、水から上がるとすぐ切れてしまう。このように完全な個体は珍しい。



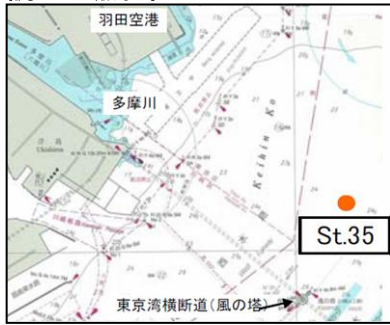
St. 22のトリガイと比べると St. 25のトリガイは小型であった。トリガイは寿司だねとして知られている。



殻長15mmほどに成長する殻の薄い小さな貝。汚濁が進んだ水域に多く、有機汚濁の指標種に指定されている。

St. 35

調査地点位置



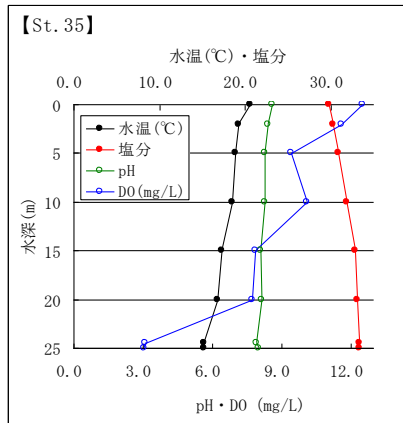
東京湾横断道の川崎人工島（風の塔）の北東に位置する。当日は3回曳網を行ったが、アカクラゲ、ミズクラゲを主体とする多量のクラゲ類のみで、その他の魚類をはじめとするその他の生物は採捕されなかった。5月13日に通過した台風6号から変わった温帯低気圧による荒天の影響が考えられるが、原因は不明。

採取試料



3回目の採取物
多量のアカクラゲ

水質の状況



周辺の状況

調査地点からは川崎人工島がかなり大きく見える。



2回目の採取物

赤褐色のものがアカクラゲ、白色のものがミズクラゲ。



アカクラゲ

直径 10~15cm の赤褐色の放射状の縞の入った傘と数 10 本の長さ 2m 以上の触手を持ったクラゲで、触手の毒は強く刺されるとかなりの痛みを感じる。近年東京湾で多く発生している。



ミズクラゲ

傘の直径 15~30cm の白色のクラゲで、傘の周りに短い触手が無数に並ぶ。毎年東京湾で大量に発生することが知られている。火力発電所の冷却水の取り入れ口に入り込み、運転に支障をきたすこともある。